



第119号

**2014-2015年度 主題**

国際会長：Wichian Boonmapajom “Mission with Faith”

「信念のあるミッション」

アジア会長：Edward K. W. Ong “Through Love, Serve”

「愛を持って奉仕しよう」

東日本区理事：渡辺 隆 「原点に立って、未来へステップ」

湘南・沖縄部長：今城高之 「一人ひとりが愛と平和の種をまこう！」

クラブ会長：辻 剛 「初心に帰り、世のため、人のため」

—喜びと楽しみを求めて—



**今月の聖句**

「イエスは、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。」

(ヨハネによる福音書 13:14-15)

**2016年3月本例会**

日時:2016年3月24日 18:30～

場所:かけはし都筑

受付:(報告書) 岡崎さよ子

司会:岡田勝美

プログラム

開会点鐘 辻 剛会長

ワイズソング・信条 一同

今月の聖句 相賀牧師

ゲスト・ビジター紹介 司会者

会長挨拶 辻 剛会長

卓話

「YMCA 脳いきいき体操」

～みんなでコグニサイズ～

横浜 YMCA インストラクター

溝部文子さん

(動きやすい服装・靴でご参加

ください)

YMCA報告 生井担当主事

スマイル

誕生祝い

3月22日 相賀 昇さん

3月31日 辻 孝子さん

各種アピール

閉会点鐘 辻 剛会長

~~~~~

閉会后、溝部さんを囲んで会食・懇親会を「ガブリエル」(センター南駅隣接・サウスウッド 2F 045-530-3451)で行いますので、ご参加ください。

**「Pay Forward」 次へ渡して**

生井 知三



『ペイ・フォワード 可能の王国』(原題: Pay It Forward)という小説、または 2000 年に公開された映画をご覧になった方はいらっしゃいますか？

この映画のあらすじとしては、中学 1 年生のトレヴァー少年が、社会の授業でシモネット先生が出した“自分の手で世界を変える方法について考えてくる”という課題に対し、この少年は「ペイ・フォワードという計画」を思いつきます。

自分が受けた親切をその人に返すのではなく、新たな別の三人に親切をしていくというものでした。さらに、その親切を受けた三人が、さらに三人に親切を行っていくというものでした。(善良版無限連鎖)ここから先の内容は、ぜひレンタルされてじっくりご覧ください。

原作者キャサリン・ライアン・ハイドは「ペイ・フォワード」作品誕生のきっかけとなった経験を語っているものがありましたので一部紹介します。作者ハイドが乗っていた車が治安の悪い町でエンストを起こしてしまうということが起こります。その車に二人の男が近付いてくるのを見て、ハイドは恐怖心を覚えました。次の瞬間、その男性たちはエンストしてしまったハイドの車を快く修理してくれたという出来事があったそうです。このことから、“善意を他人へ回す”という思考が誕生したと述べられています。

“Pay Forward”-「次へ渡す」ということについて聖書では、「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」(ルカ6:31)。口語訳では「人々にしてほしいと、あなたの方の望むことを、人々にもその通りにせよ」と記されています。また、有名な良きサマリヤ人のたとえでも、イエスは律法学者に「行って、あなたも同じようにしなさい」(ルカ10:37)と語られています。

誰かから受けた親切や恩などを、次の誰かに「恩を送る」「次へ渡す」「先へ送る」というように意識し、そして実践していくことが平和を築くひとつの方法であると、ワイズの皆さんの活動や働きを間近に見させていただき感じました。2年間でしたが、つづきワイズの皆様とご一緒させていただき多くのこと学ばせていただきました。

皆さんは、その誰かのために、思いを寄せ、祈り、必要ならばその人のところまで歩み寄り、一緒に汗をかき、そして、みんなの喜びを大切にされていました。神と隣人に仕えることを通して自分が生かされ、人としての本当の豊かさというものを求めていくことがワイズメンの働きであるということもつづきワイズの皆さんから学びました。

(次頁につづく)

**前月データ**

| 例会出席 | 16名 | 在籍会員数  | 18名 | 各種記録  | 前月   | 累計      |
|------|-----|--------|-----|-------|------|---------|
| メンバー | 15名 | 月間出席数  | 17名 | 使用済切手 | 800g | 1,000g  |
| ビジター | 1名  | メーキャップ | 2名  | プルタブ  | kg   | 10.4kg  |
| ゲスト  | 名   | 月間出席率  | 94% | スマイル  | 円    | 48,922円 |

自発的に主体的に他者へ関わっていく行動に価値があることを、聖書とワイズメンの一人おひとりの働きから学びました。終わりではありませんが、ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

そういえば、私も20代前半の時、車のバッテリーがあがってしまい動かなくなっていたところを助けてくださった方がいました。お礼にとお財布を用意して近寄ったところ、その方は「次に困っている人を見かけたら助けてくれればいいよ」と何も受け取らずにいかれてしまいました。それから一度だけでしたが、私もこの方と同じことをすることができました。うれしい思いや大切な願いは、人の優しさによって広がっていくのですね。ありがとうございました。

## <2月本例会報告>

日時:2016年2月26日(金) 18:30~21:30

会場:中華料理敦煌(横浜北YMCA)

参加者:相賀、今城H・T、岡崎、岡田K・M、久保、鈴木K・S、田中、辻Ts、生井、林M・S、福島

第一部 例会 司会:岡田勝美、受付:岡田美和

5年目となる横浜北YMCAとの交流例会です。毎年来ていただく茂木 雄氏を初めYMCAよりは15名が参加しました。

○開会点鐘

○ワイズソングと信条

○今月の聖句と祈禱(相賀チャプレン)

「イエスはお答えになった。“人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる”と書いてある。」(マタイによる福音書4:4)

○ゲスト茂木 雄氏の挨拶

田中ワイズのブリテン巻頭言「YMCAと片岡健吉について」を読みました。YMCAの歴史で思い出すことを少し話したい。特に女性の活躍がありました、、、。

○辻Ts会長の挨拶

事務例会に続いて、今回もピンクシャツデーにしました。いじめをなくす活動を進めていきたい。横浜YMCAが新しく運営委託を受けた「東本郷ケアプラザ」の活動も横浜つづきクラブとして共働していきたい、、、。

○卓話「東日本震災支援活動 福島の子供達と共に」

横浜北YMCA健康教育 主任 藤沢幸隆氏



いわき育英舎(養護施設)の子ども達(2歳~18歳)20名ほどと「三浦ふれあいの村」で5日間楽しい時を過ごしました。このプログラムは「CWS日本支部」のサポートで実現しました。昨年は山(東山荘)で行われ、今年は海でした。子ども達の事情を考えて、家族の話は

しない等心がけました。外遊びが少ない子ども達と、海では筏づくり・カヤックをしました。野外ではゲーム・ボール遊び・炊事などをしました。

またお台場(フジテレビ)にも行きました。5日間のプログラムが終わりました。はじめ笑顔の少なかった子ども達も別れの時には涙ぐむ子もいました。3・4月にも再びいわき育英舎の子ども達とのプログラムが予定されています。これからも支援を続けていきたいです。

○誕生祝 山添 訓ワイズと横山裕二(横浜北YMCA)さん

○各種報告・アピール

・3/1(火)Y-Y'S協議会があります。できるだけ参加してください。その前には部評議会があります。

・2/28(日)みんなの家の10周年記念行事があります。

・3/12(土)輪和Waコンサート(大和YMCA)があります。

○閉会点鐘

第2部は交流会(久保ワイズ司会)

食前祈禱は鈴木Sワイズ、乾杯は今城Tワイズ(湘南・沖縄部部長)でした。

会食に入り、北Y運営委員会・スタッフおよびワイズメンバーの自己紹介に続いて「東本郷ケアプラザについて」瀬谷智明さん(横浜YMCA)より話がありました。

会食・ビールと盛り上がり、YMCAとワイズとの会話、交流が弾みました。

最後に「YMCAの歌」をみんな起立して歌いました。

閉会の挨拶は北YMCA館長生井知三さんでした。

「ワイズとYMCAとの交流会はとても意義があります。経験豊かなワイズの方々の話を聞けて若いスタッフは大変勉強になります。働くことの意味、奉仕することの大切さを自覚するのは重要です、、、。」

交流会も回を重ねるにつれ、お互いに顔も覚え、盛り上がりの中につながりや深まりも見え、ますますYMCAファミリーを感じました。

若いリーダー達からはエネルギーをもらいました。自分の若かった頃を思い起こしました。“青少年のためにYMCAにつくそう”というワイズの信条を改めて強くしました。これからもYMCAの活動に関心を持ち、支援をしていきたいと思いました。例年行われているこの交流会を楽しみにしています。

(岡田美和 記)

### <3月事務例会報告>

日時:2016年3月8日(火) 18:00-20:15

会場:田園都筑教会・懇親会「一心」

出席者:今城H・T、岡崎、岡田K・M、久保、鈴木S・K、田中、辻Ts、林M・S、福島、横田

#### ▶ 議案

- (1) 「記念誌」用原稿の集まり状況および今後のスケジュール(鈴木Sチーフ):3月末までに提出してほしい。4/15(金)を完成予定日としている。
- (2) 「記念例会」(第I部、第2部のプログラム決定および人数の予想)(今城Tチーフ、林Sサブチーフ):林Sサブチーフ作成の「10周年記念例会・シンポジウム 概算予算書」をもとに検討した。概算予算では招待パネラーの交通費負担および記念誌発行等で不足額が予想されるが、登録費を5千円にUPするので改善される。人数は40名を予定している。記念品は記念誌を基本的に考える。登録締め切りは5/10(火)とする。
- (3) 「会員増強」活動進捗状況(横田チーフ、各自):各自より提出される入会候補者リストをチーフがまとめる。
- (4) 部評議会・Y-Y's協議会の件(鈴木S、今城T):次々期部長金子功ワイズおよび次期若木一美部長体制の役員の承認があった。詳しくは部長通信を参照してほしい。6/18(土)には最後の第3回部評議会が開催される。研修会もあるのでクラブ新・現役員は出席してほしい。Y-Y's協議会では「ユースの育成」について金子功ワイズより発案があり審議された。また協議会終了後はYMCAとワイズ(Y-Y's)の懇親会で盛り上がった。
- (5) 3月の強調月間「BF」/本例会でのアピール準備(今城T、田中)
- (6) 部会の件(辻Ts):過日の部会でキャンセル料が発生した。クラブ負担のルール化を協議。

#### ▶ 報告・連絡・確認事項

- (1) 3・4月の予定確認(予定表にて)
  - ・3/12(土)輪・和・Waコンサート(大和YMCA) 13:00~
  - ・3/12(土)わかめ例会(鎌倉クラブ) 18:00~
- ▶ 報告
  - ・「みんなの家」報告(COCO)(今城H)
  - ・「みんなの家」報告(ポピー)(鈴木K):次年度のテーマは「共に生きるパートII(地域と共に)」です。
  - ・「みんなの家」報告(10周年祝会)(辻Ts、鈴木K)
  - ・「アーモンド」報告(林M):学習支援の効果が、それぞれの高校に合格した。
  - ・日本語スピーチコンテスト(岡田K・M、今城T・H、鈴木S)
  - ・横浜北Yうたごえ広場(久保):3/8(火)の参加者は64名と過去最高であった。新しい人も増えた。
- (3) 確認:3月~6月卓話者は確認済(辻Ts)
- (4) 今月・来月のCS活動確認(月別担当者予定表にて)、前回の実績報告、担当者変更など。(辻Ts)
- (5) ブリテン3月号について(林S):今月の協力者岡田K
- (6) 東日本地区理事候補の指名について(辻Ts)

閉会点鐘

(岡田 勝美 記)

### <Y-Y's協議会 報告>

今城高之

横浜 YMCA と Y's 湘南・沖縄部の第72回定期協議会が去る3月1日横浜中央YMCAにて開催されました。年間4回開催されていることから、過去18年間にわたり開催されてきたことになるこの協議会は、恐らく、全国的に見ても極めて稀有なケースではないでしょうか。湘南・沖縄部として、横浜YMCAとして本当に誇っていいことではないかと思っています。当日の概要を簡単に報告します。

19:00開会、横浜クラブ担当青木主事の司会で開会礼拝が行われました。賛美歌484番で賛美、聖句朗読(マタイ5/15-16)に続き、横浜クラブ金子ワイズの祈祷がありました。

横浜YMCA 田口努総主事が挨拶に立ち、日頃のワイズの協力、特に、会員大会、チャリティーゴルフなどにおけるワイズの働きに対する感謝が述べられました。同じく挨拶に立った湘南・沖縄部今城部長より、任期の2/3が終わったが、その間YMCAの活動の多くにワイズとして参画、協力できたことに感謝している旨が述べられた。

次いで「協議」の時に移り、横浜クラブ金子功会長より、ワイズの国際諸活動へのユース派遣事業が必ずしも順調に推移していない旨の発議があり、ユースを発掘し、然るべきプログラムに送り込むための体制づくりをYMCAの協力を得て進めることについて意見交換を行った。YMCA事業で重要な枠割を占めるユースリーダーに、国際的なYMCA運動、ワイズ運動に理解と関心を持ってもらうような方策の検討が必要ということで意見の一致を見ました。

「報告」に移り、横浜YMCA並びに湘南・沖縄部につき、双方より発表を行った。特記すべき項目につき概要を述べます。

- ・横浜YMCA次年度活動方針が総主事より披露された。それによると、創立132年を迎えるにあたり、社会の変化や課題に向けて共に生きる力の育成を、ヴィジョン2020の達成のための初年度をスタートさせる。誰もが公平に将来の夢や希望を描ける平和な社会の実現を目指す。
- ・2月11日開催の横浜YMCA会員大会には、483名の参加者(うち67%が会員)があり、一般プログラムに加え、ピースフォーラムが行われ、全体の活性化につながったと思われる。「平和について考え」、「会員活動の活性化を図り」、「楽しく交流する」といった目的が達成できた。
- ・第一回横浜YMCAチャリティーゴルフが名門「戸塚カントリー倶楽部」にて開催され、初回にも関わらず95名の参加者を得て成功裏に開催された。

◀ワイズ関連報告は割愛します▶

※次回Y-Y's協議会は、鎌倉クラブの担当により、6月7日(火)19:00-20:30に開催されることとなりました。



## ＜原町だより＞

中野祐子

原町で暮らすようになって、じきに1年が経とうとしています。4月の中旬にやっと満開になる桜やエアコンがいらぬ夏の夜、10月から長い間美しい紅葉、冬の訪れを告げる雪虫など、この年になっても多くの初体験をしました。教会の活動としては、毎月行っている放射能測定、同じ「相双・宮城南地区」の教会との交わり、保育園行事（夏祭り、バザー）への参加協力（食販）、子どもの教会の行事（バーベキュー、クリスマス祝会）等、教会の皆さんに教わりながら取り組んできました。教会の行事であるイースター、ペンテコステ、クリスマスもひと通り終えました。その度に都筑教会に想いを馳せ、どこ教会にいても私たちは同じ主の恵みにあずかり、同じキリストの体に連なることができるという喜びを改めて感じ、感謝しました。



その中で、「放射能汚染がある原町」を意識させられた出来事もありました。アドベントが始まる4～5日前だったでしょうか。軽井沢南教会から大きな大きな荷物が届き、開けてみるとモミの木が2本とヒイラギやひばの葉、松ぼっくり、いろいろな赤い実などがたくさん入っていました。聞けばここ数年、毎年クリスマスに必要な「緑と赤」のプレゼントをくださるのだそうです。素敵な支援だなあと感激した反面、自分たちの不自由な環境をいやでも思い知らされました。原町にも豊かな「緑と赤」はあるのです…。今回、教会の玄関外に飾るリースは原町の木々の葉、実で作りましたが、保育園に飾るリースや礼拝堂のクランツは贈られたものを使いました。モミの木もツリーにして飾りつけをしました。支援のありがたさを思いつつ、「我が町の緑」を使ってクリスマスを祝う日はいつくるのか、ことさら待ちわびる気持ちを抱きました。

放射能問題に加え最近の原町では、原発事故に伴って発生した現象を憂える声をよく聞きます。それは例えば、原町に大勢来ている除染作業員について、それから国や東電からもらう補償金についてです。

今、原町ではあちらこちらに作業員の宿舎が建てられ、多くの方がそこで生活しています。現在南相馬市には3万人と言われていますが、まだこれから増えていくようです。飯館村や浪江町の除染作業が始められ、夜間立ち入り禁止のそうした地域を除染する人たちは、原町の宿舎に寝泊まりしているのです。夕方、スーパーやコンビニは仕事帰り

の作業員の方たちであふれます。日中、民家の除染作業をしている作業員の方たちは丁寧にあいさつをしてくれて感じが良いのですが、中にはお店などでトラブルを起こす人たちもいるようです。最近の原町は治安が悪い、というのがもっぱらの評判で、女性は暗くなってから絶対に一人歩きしてはいけないと皆が口をそろえて言います。つい先日も、車がない人たちが安心して移動できるよう、ドアトゥドアの乗り合いタクシーを要望する署名が回覧板で回ってきました。高齢者向けという意図もあるようですが、物騒で一人歩きできないことも理由にあげられていました。除染作業に感謝しつつも、大勢のよそ者に戸惑う原町の方たちがいます。

また、補償金については、道路一本でその金額に大きな差が出るという話もさることながら、多額の補償金をもらった人たちが働かないで、パチンコや夜の居酒屋にあふれていることを嘆く声を耳にします。「いくらお金もらったって、そんなじゃちつとも幸せじゃない。お金がなくてもみんなまじめにコツコツ働いてた方がいいんだ」と皆さん悔しそうにおっしゃいます。原町という町が、そして原町の人々が姿を変えていくことに不安をおぼえ、心を痛めておられるのです。原発問題は放射能被曝の問題だけではない、身体だけでなく人々の暮らしや心をむしばんでいく問題なのだと感じます。

そんな中ですが、今年になってから嬉しいニュースが飛び込んできました。この春、10年ぶりに原町教会で結婚式が行われることになったのです。旦那様になるのは南相馬の方、お嫁さんは宮崎県から復興支援のため原町に移住した方です。お二人が礼拝に出席され、初めてお会いした時に彼女は「初めは一年だけと思っていたんですが、もう一年、もう一年と伸ばしていたら生涯の伴侶に出会っちゃったんです」と笑顔で話してくれました。そのすがすがしさに私は心から拍手を送りたくくなりました。家族や地域がバラバラになってしまった原町ですが、新しい出会いやつながりも確かにある、それがかけがえのない出会いだったりする…。私たちは「震災で傷つき、悲しみの中にある方々に主の慰めと励ましがあるように」と祈りますが、その祈りに対する一つの応えとして、そうした出会いやつながりがあるように感じたのです。原町教会には、復興関係のお仕事で全国各地からこの町に来ているクリスチャンの方々が集ってくださいます。除染作業員の方もいらっしゃいます。数か月や数年で離れてしまう方たちですが、神様が定められたこの時に出会い、共に礼拝にあずかることこそ「主による慰めと励まし」ではないかと思えました。また、そうなってほしいと願っています。

深刻さの違いはあるものの、課題や不安材料があるのはどこの町、どこの教会でも同じでしょう。けれども同時に、「主の恵みも共にある」ことを忘れないでいようと思います。恵みを数え、主の顧みを感じる事が何よりの希望になると信じます。



## ＜横浜 YMCA「子ども支援基金」 チャリティーゴルフ参加報告＞

鈴木 茂

日時 : 2016年2月15日(月) 8:00~17:00  
 会場 : 戸塚カントリー倶楽部 西コース  
 横浜市旭区大池町26 Tel. 045-351-1241  
 参加費 : 30,000円

参加者 : 96名(内横浜つづき2名)

横浜 YMCA の「子ども支援(BAPY)基金」のためのチャリティーゴルフが2月15日(月)、戸塚カントリー倶楽部で開催され、つづきクラブからは、実行委員として久保勝昭さんと鈴木 茂が参加した。横浜 YMCA としては、初めてのチャリティーゴルフであり、はたしてどの程度の参加者があるのか、皆目見当もつかなかったが、結果的には96名の参加者が与えられ、75万円を「子ども基金」へ寄付することができ、ほっとすることができた。

チャリティーゴルフの成否の大半は、当日の天候で決まるとも聞かされていた上に、前日は荒れ模様で天気も心配であったが、当日は何とか天候にも恵まれ、参加者全員が無事プレイを終了することができた。初めてということで、いろいろ反省点や課題も多いイベントではあったが、横浜 YMCA の「子ども基金」に賛同して参加して下さった方々が、100名近くに及んだことは感謝すべきことであった。また、戸塚カントリーという名門コースでプレイできてよかった、というご意見を数多くいただいたことも、大きな慰めであった。

表彰式では、ゲストとしてお招きした戸張 捷氏が、世界の一流ゴルフプレーヤーには、人間的にも魅力的な人物が多いという事例をエピソードも交えてお話し下さり、世界を目指す日本の若手選手もゴルフの腕とともに、自分自身の人間も磨いてほしいとのゴルフ談義を語って下さり、印象的であった。

ワイズ関係では、藤井寛敏前国際会長をはじめ、東西各クラブから20名ほどの会員が参加して下さったことも、喜ばしいことであった。特に、京都プリンスクラブの岡西博司さん、京都キャピタルクラブの石倉 尚さん、名古屋クラブの川本龍資さん・小尾雅彦さん、仙台青葉城クラブの菊池弘生さん、宇都宮クラブの南部利行さんなどが、遠路はるばる参加して下さり、感激であった。中でも、京都と名古屋からの4人の方々と、前日2月14日の夕方、久保勝昭さん、今城高之さんも交え、前夜祭と称して中華街で会食を共にし、ワイズの交わりを深めることができたことは、印象に残る思い出になった。



## ＜輪和 Wa とワカメの一日＞

今城高之



去る3月12日(土)、大和YMCAが主催する”輪和 Wa“コンサートに伺いました。

コンサートのプログラムには次のように記されていました。

「このコンサートは、障がい児・者の存在を知り、その個性を理解し、共に歩んでゆくことを目指して9年前に大和YMCAの小さな活動から始まりました。100回の開催を目指して行われているもので、今回はその9回目となります。会場となった大和市保健福祉センターホールには300名強の聴衆が集い、主催者代表金井之宏さんの熱い開会の挨拶に始まったコンサートは、途中20分の休憩を挟む2時間余りのもので、出演者は、何れも地元大和市に繋がる3名の演奏家の方々と、歌曲や歌劇アリアの数々、リコーダー、ピアノの演奏と曲の解説がありました。会場の最前列には、車いすの方々とその付き添いの方々並び、このコンサートの特徴というところでしょうか。これに見倣って始めた我がクラブを中心とする“YOU&Iコンサート”も今年で6回目を迎えます。2つのコンサートが、互いに触発し合い、学び合って長く続けることができるよう願ってやみません。

◇ 横浜とつづき・鎌倉クラブ合同わかめ例会

コンサートでお目に掛かった岡田勝美・美和 Ys 夫妻共々、小田急江ノ島線、江ノ電を乗り継いで「長谷」までやってきました。駅から15分程度の「蕾の家」という場所で開催される、鎌倉クラブの「ワカメ」例会に出席するためです。途中、時間があつたので、長谷寺を玄関から拝見し、鎌倉彫の老舗を覗いたりして定刻に会場に到着。閑静な住宅街の中に佇む「蕾の家」は、何の変哲もない古い住宅で、池田会長のご親戚が所有されていて、様々な催し物に利用されているとのこと。

家中の居間と思しき場所のテーブルを20名弱の参加者が囲みます。ご当地の鎌倉クラブとつづきクラブ、つづきクラブの面々です。まずは、クラブ例会が行われ、鎌倉クラブの田中義宣ワイズにより、先に鎌倉で開催された、原子力問題を取り上げたシンポジウムの報告がありました。いよいよ、ワカメ・パーティーの開始です。ご婦人たちによる心のこもった各種のわかめ料理に続き、ワカメのしゃぶしゃぶとなります。前日と当日、池田光司会長が鎌倉の海岸で採取したワカメは、骨太(?)でなかなか野趣あふれるものでした。更に、近海物のブリがしゃぶしゃぶに加わり、様々なアルコールも加わって大盛況。すっかり楽しませて頂き、10時前に辞して遠路帰宅したまでは鮮明でしたが、いったいどんな経路で家まで帰ったのやら……

## &lt;北YMCAだより&gt;

東日本大震災から5年が過ぎました。今年の3.11もあの時と同じ金曜日でした。その時のこと、それからのこと、思い出されました。

今もまだ仮設住宅や他県等で生活している多くの方を覚える時、私たち一人ひとりに何ができるのかをしっかりと考え、具体的に取り組んでいきたいと考えています。この3月には、「3.11をわすれない」として礼拝の時をもったり、多くの子どもたちが参加協力した「チャリティーチアダンス発表会」や「チャリティーサッカー」などが開催されました。これからも多くの人との「つながり」を大切にしながら活動を進めていきたいと思えます。

年度末の短期講習会やキャンプ、新年度の準備が同時に進められています。この春も水泳に体操に、スキーキャンプにと多くの子どもたちが参加してくれます。

健康教育の新年度準備では、昨年同時期に比べ約90名も多く申し込みをいただいております。また、生涯教育の新規プログラムである児童発達支援事業も2月よりスタートすることができました。

今年度もワイズの皆様のお支え、多くの励ましやご指導をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。2016年度もどうぞ、よろしく願いいたします。

《4月行事予定》

4月 1日 横浜YMCA入会始業式

4月29日 ヘルシーキッズキャンペーン

横浜北YMCA 館長 生井 知三

「チャリティーサッカー」風景



## &lt;「みんなの家10周年を祝う会」に参加して&gt;

鈴木 恭子

春のように暖かな2月28日、「みんなの家10周年を祝う会」が地域活動ホーム「くさぶえ」で行われ、社会長と共に出席いたしました。

「みんなの家」は15年前、重度障害児をもつ中村真知子さんたち数名のお母さん方が、「障害のある人もない人も一緒に過ごせる安心安全な生活空間を創ってみたい」という切なる思いから生まれました。それが6年後に形になり、今はコーポラティブハウス(福祉的共生住宅)として、地域の中で立派に育ち続けている事への感謝の会でした。

「祝う会」は理事長の上瀧吉洋さんの挨拶ではじまり、つづいて「みんなの家」ができるまでの経過を高山和彦氏(横浜障害者福祉の先駆者)が話されました。

高山氏は、中村さんたちの相談を受け無理難題でありながら引き受け、設計者、建築会社の協力を得て、夢の実現に力を惜しまなかったとの事でした。設計、建築を担当されたかたは「本当に大変な仕事だったが、今も誇りに思え嬉しい」と話されました。

そして10年後の今は共生住宅として住みながら、グループホーム、障害児の学童保育、地域福祉サービスへと活動を広げています。「みんなの家」の活動に参加しているそれぞれの会の担当者50名ほどが参加しました。昼食をはさみ午後は「みんなの家」で活動しているマリンバグループの演奏を聴き、感動をした一日でした。

## &lt;2016~2017年度 主題紹介&gt;

国際会長 Joan Wilson (カナダ)

◇ 主題 “Our Future Begins Today.”

「私たちの未来は、今日より始まる」

スローガン: “Together We Can Do So Much More.”

「手を取り合えば、もっと多くのことができる」

アジア地域会長 Tung Ming Hsiao (台湾)

◇ 主題 “Respect Y's Movement”

「ワイズ運動を尊重しよう」

スローガン: “Solidify Y Men Family for Better World”

「よりよい世界のために、ワイズメン・ファミリーの絆を強めよう」

東日本区理事 利根川 恵子 (川越)

◇ 主題 「明日に向かって、今日動こう」

“For the Future, Act Today!”

スローガン: 「手を取り合って、今、行動を！」

“Together, Let's Roll Now.”

## 4月例会予告

4月本例会の卓話は、東京世田谷クラブの太田勝人さんに「日本の学校教育に提言したい事」—わが子のドイツとUSAでの教育を実体験して—と題してお話いただきます。太田さんは、次期東日本国際・交流事業主任の重責を担われます。ご期待ください。

**本例会: 4月22日(金) 18:30~20:30**

**例会場: かけはし都筑**

4月事務例会は、12日(火) 18:00から田園都筑教会で行います。